

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370550

研究課題名(和文)現代語文法形式から同じ意味の古典語文法形式を引く『現古文法対照辞書』の作成

研究課題名(英文)Creation of "Current Old Grammar Dictionary", finding a classic word corresponding to a modern word in a grammatical form

研究代表者

鈴木 泰(suzuki, tai)

専修大学・人文科学研究所・参与

研究者番号：70091832

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：冊子体の「現古対照文法辞典」を制作した。総ページ数93ページ。1,000部印刷。体裁：分類番号、見出し、現代語訳、古典語対照形式、古典原文、出典、所在。総項目数、約450。

日本語能力試験出題基準の機能語一覧の語彙(見出し)を、古典語による11の文学作品の現代語訳によって調査し、それに対応する古典原文を用例とともに一覧したものである。語彙レベルでの現代語に相当する古典語を探し出す辞書は「現古辞典」ほか多くあるのに対して文法形式で現代語に対応する古典語を探し出す手段がなかったのを補ったものである。現代語使用の場でそれに対応する古典語の言い回しがどうであったか知りたいときに用いることができる。

研究成果の概要(英文)：We created the booklet's "Current Old Grammar Dictionary". Total number of pages 93. 1,000 copies printed. Appearance: classification number, entry word, modern language translation, classic word correspondence format, classic original text, source, location. Total number of entry word, about 450.

We studied the vocabulary (entry word) of the function word list of "the Japanese Language Proficiency Test Questionnaire" by the modern translation of eleven literary works by classical languages and listed the corresponding classical word with examples. Dictionaries, like "Current Old vocabulary dictionary", for finding a classic word equivalent to a modern word at the vocabulary level are supplemented, but the dictionary for finding a classic word corresponding to a modern word in a grammatical form. You can use this when you want to know how the phrase of the classic corresponding, which is used in the place of modern language use.

研究分野：人文学

キーワード：言語学 日本語学 文法 古典語

1. 研究開始当初の背景

新たな教育課程においては国語科の目的は日本の言語文化の習得である。しかし、従来日本の言語教育ではひごろつがっている日本語の特殊性を生徒がはじめて認識するのは、皮肉なことに英語教育の場面においてである。自国の文化とともに母国語を対象化する機会となるということは、外国語教育の目的の一つであるから、それでいいわけであるが、しかしその目的は、よりたやすく古典語教育を本格的に国語教育のなかにとりいれることによって達成することができる。にもかかわらず、日本の言語教育の世界においては古典語を現代語と正当に対照させて取り入れる資材が欠けている。かろうじて語彙についてはそれらしいものができ始めているが、現代語の文法形式を古典語の文法形式と対照させて取り入れる手段は皆無である。

2. 研究の目的

古典語も潜在的な日本語であるから、現代語使用の現場で、この言い回しは古典語でどういったか気になるとき、それを知る手がかりがあれば、古典語を現代に新たな意味で再生させることができる。その気づきを、語彙の面からだけでなく文法の面からも補佐することができれば現代語を古典語に翻訳することもそれほど難しくなくなる。

そこで、古典語でかかれた文学作品につけられた現代語訳について、そこにみいだされる現代語の文法機能を表す要素が古典語の原文ではどのような形式で表されているかをしらべ、現代語の機能語からそれに対応する古典語形式をさがす辞書『現古対照文法辞典』を作成することを目的とした。

3. 研究の方法

もし現代語の文法形式と古典語の文法形式を対照させるとしたら、どういうところから手をつけたらよいだろうかと考えると、日本には古典語で書かれた文学作品がおおくのこされており、それにはおおくのばあい現代語訳がつけられているので、その現代語訳を利用するのがもっとも近道だろう。その現代語訳にみいだされる現代語特有の文法機能を表す語が古典語の原文ではどのような形式になっているかをしらべ、現代語の機能語からそれに対応する古典語形式をさがしだせばいい。その結果を辞書のようなものにまとめ、それを『現古対照文法辞典』となづけてその編集を実際に行った。それを用いることによって現代語から古典語の文法形式を引くことができるようにした。

ただ、文法的意味を表す形式を機能語というとしても、どのようなものをそういうのかということについては、人によって違いがある。そこで、本辞典は、そのリストとして、国際交流基金・日本国際教育協会(2002)『日本語能力試験出題基準【改訂版】』(凡人社)に付帯される現代語の機能語リストをつかうことにした。そこでは、機能語は難易度から1級から4級にわけられているが、そのなかから難易度のたかい1, 2級の機能語を取り上げた。その機能語について、小学館の新編日本古典文学全集から『源氏物語』など11作品を選んでその現代語訳において出題基準の機能語を検索し、それに対応する古典語形式を取り出し、それを現代語機能語の50音順にまとめた。しらみつぶしの調査というわけではなく、精粗の差もあるが、現代語機能語に対応する有力な古典語の機能形式はおおかた収集できたと考えられる。

4. 研究成果

日本語を古代語と近代語に二大別するメルクマールとして、意味機能的な「論理的な関係の明示化」があげられる。その中でも、まず句格＝接続表現の明示化は、「ほどに／さかいで／ものの」「ところ(が／で)」「とき／ばあい／うえ／ため／くせ(に)」「ので／のに」のように、まえにテンスの対立をもった連体節をうける形式名詞(つなぎ)によって、ゆたかにされてきたが、この辞典を参照することによってその事実を確認することができる。。

また、古典語の現代への革新のなかで、論理的な意味の明確化のために、形式的な補助動詞形態をかりた「おいて、ついて」などの後置詞の充実も見逃せない。本辞典を参照することによって、現代語の後置詞は、古典語では、二、ヲなどの助詞に対応するものが主流であることが知られる。

さらに、助動詞という語尾的な形式ではその独自の関係を十分表しきれず、独立性のつよい、述語肥大化形式としての「かもしれない」「なければならない」などのむすびへの展開も現代語の成立には見逃せない。現代語のむすびに対応するのが古典語では、いわゆる助動詞であることが本辞典を参照することによって計量的にも確認できる。

なお、現代語では、文法形式の機能別分類がすすんでいるが、古典語においては、それが無い。本辞典では、付帯された「現代語機能語一覧」を使うことによって、古典語の機能形式の一覧をつくることも大きな成果である。

同報告書の社会的な貢献性は次のような点にある。第一に作歌等の文学活動、古典語の教育と習得、翻訳実務等に有効に用いられるはずであり、さらには現代語の表現形式と古典語の表現形式の違いを明かにするとともに、古典語の機能別に集約することにも有効なはずである。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

著者名 鈴木泰
論文標題 ツ・ヌの淵源
雑誌名 日本語学
巻号 35 - 5
発行年 2016
最初と最後の頁 38 - 50
査読 無

著者名 高橋雄一
論文標題 現代日本語の機能語のリスト作成について 現古文法対照辞書の作成に関連して
雑誌名 専修大学人文科学研究所月報
巻号 285
発行年 2017
最初と最後の頁 1 - 18
査読 無

著者名 安部清哉
論文標題 平安前期の複合辞・連語機能語(複合連語機能辞)の現代古典対照『竹取物語』(2)形態が全く異なるもの
雑誌名 学習院大学計算機センター年報
巻号 16
発行年 2017
最初と最後の頁 79 - 97
査読 無

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 3 件)

著者名 須田淳一
書名 チャプター執筆「中世にいたる正用具格の不在 ニテ、シテを中心に」(『鈴木先生古希記念論文集』)
出版社 日本語文法研究会
発行年 2017
最初と最後の頁 66 - 74

著者名 津留崎由紀子
書名 チャプター執筆「「ものだ」文と中止形「～もので」の表す関係の意味」(『鈴木先生古希記念論文集』)
出版社 日本語文法研究会
発行年 2017
最初と最後の頁 100 - 111

著者名 鈴木泰
書名 チャプター執筆「古典日本語における認識的条件文」(『日本語条件文の諸相』)

出版社 くろしお出版
発行年 2017
最初と最後の頁 85 - 114

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 泰(suzuki, tai)
専修大学・人文科学研究所・参与
研究者番号：70091832

(2) 研究分担者

安部 清哉(abe, seiya)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：80184216

斎藤 達哉(saito, tatsuya)
専修大学・文学部・教授
研究者番号：90321546

須田 淳一(suda, junichi)
専修大学・文学部・准教授
研究者番号：30310600

須田 義治(suda, yoshiharu)
大東文化大学・外国語学部・教授
研究者番号：70369205

高橋 雄一(takahashi, yuichi)
専修大学・文学部・准教授
研究者番号：20535596

山本 博子(yamamoto, hiroko)

東洋学園大学・東洋学園大学グローバル・
コミュニケーション学部・講師
研究者番号：80756528

(3) 連携研究者

石井 久雄(ishii, hisao)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：70124188

(4) 研究協力者

松原 幸子(matubara, satiko)
津留崎 由紀子(tsurusaki, yukiko)
山崎 貞子(yamazaki, sadako)
鈴木 浩(suzuki, hirosi)
杉山俊一郎(sugiyama, shyunichiro)